

2017年9月27日
グリーンコープ共同体
代表理事 熊野千恵美

前略 このたびはご意見ありがとうございました。私どもでは月1回、理事会を開催しています。そこで、9月11日にホームページを通じていただいたご意見について、本（2017年9月27）日開催の理事会において検討し、ご回答させていただくことに致しました。その結果、お返事が遅くなって申し訳ありませんでした。いただいたご意見について、以下のとおりご回答をお届け致します。ご査収下さい。

グリーンコープは、1970年代の初め頃に九州で誕生した地域生活協同組合です。また、グリーンコープはこれまで、人と人とのつながり（結合）としての生活協同組合のあり方を精一杯に貫いてきました。そして、それは「組合員と組合員」の「つながり」という意味だけでなく、取り扱う商品（食べもの）の生産者・メーカーと組合員との「つながり」という意味でも、大切に考えてきました。つまり、「食べもの」（商品）は人のつながりの中で生まれ、育ってくるものである、と考えてきました。そして、「人（組合員）と人（組合員）」が地域で次々とつながりを作りながら、グリーンコープ生協は今、大阪府以西の西日本（14府県）に広がってきています。

そして、私たち・グリーンコープは、「食べもの」（商品）は人のつながりの中に生まれ、育ってくるものであると考えますから、出来る限り「地場」「地産・地消」を大切にしたいと考えてきました。特に、農畜産物については、「地域を守る」「日本の農畜産業を守る」という考えから、「生産者にとって、再生産可能な価格で取引（購入）する」「生産者、栽培・生産内容を確定する」「生産者と組合員（消費者）が交流する」という関係（「産直関係」）を大切にしてきました。また、そう考えますから、基本的に外国産の農畜産物を商材として取り扱うということはず、国内で確保出来ないものに限って取り扱う範囲です。

そして、そのようなグリーンコープの思いと歴史と経過によって、グリーンコープが取り扱う食べもの（商品）は圧倒的に九州産が多く、それ以外の地域の産物はとても少ないことになっています。ですから、グリーンコープで取り扱っている福島県の産物は、東日本大震災が発生する以前からは化粧品2品目と産地指定米こしひかり（福島県会津地方のお米）、東日本大震災発生後は「若桃の甘露煮」（年2回企画、22号企画なし）「にんじんを使ったトロっと煮詰めた甘さ控えめお野菜ジャム」（年2回企画、22号企画なし）「ひまわり油みんなの手」（年1回、製造後企画、22号企画なし）となっています。

つまり、グリーンコープはこれまで、商品を開発・配置する際、「つながり」がないものを開発・配置するということをしてきていません。そして、今後も、そうしていきたいと考えています。もっと申しますと、一般の物品販売業者のように福島県の物産を商材として取り揃え、そして、販売するために、例えば、福島県の県産品振興戦略課様に商材を探していただくような考えはありません。グリーンコープはこれまで、そうしたことをしたことがないのです。

繰り返しになりますが、グリーンコープは、「食べもの」（商品）は人のつながりの中

に生まれ、育ってくるものであると考えますから、「つながり」がないものを取り扱おうという考えはありません。そして、グリーンコープは、自らのありたいあり方を貫いた上で、また、取り扱う商品についても、これまでの生産者やメーカーとの取引を最大限に尊重した上で、東日本大震災からの復興支援につながることを精一杯に考え、グリーンコープの考えること、出来ることに取り組んできたのです。

具体的には、グリーンコープは、2011年3月11日に地震が発生した後、すぐに支援物資の手配を開始し、3月12日（土）と3月13日（日）に支援物資を準備し、2011年3月14日、福岡市から支援物資を積んだ10トントラックを「東日本」に向けて出発させました。グリーンコープは、東日本の皆さんとの交流は西日本の生産者やメーカーの皆さんとの交流ほど活発で深くなかったため、東日本大震災が発生した直後、被災地に連絡する生産者やメーカーも少なく、震災の混乱の中で、様々な通信状況も混乱していたため、何も出来ないのではないか、と思わされる状況でした。したがって、3月14日の時点で、福岡市から支援物資を運ぶトラックを出発させる際、支援物資の届け先は分からないまま出発しました。「東日本に向かう。行けるところまで行く。行くことが出来ないことになれば、そこは被災地であり、被災地に出会って、支援物資を届ける」という理事会確認に基づいて、出発しました。以降、グリーンコープの東日本大震災復興支援の取り組みは、3月15日17時に山形県米沢市に到着し、支援物資をお届けし、その後、宮城県での支援活動に出会い、岩手県へとつながり、現在、福島県の皆さんとも出会っています。出会いから出会い、人から人へのつながりの中で進めてきています。詳細は、ぜひ、ホームページをご覧くださいませようお願い致します。

グリーンコープは、グリーンコープとして存在しながら、その中で、東日本大震災の復興支援として出来ることに取り組んでいます。グリーンコープの東日本大震災の復興支援の取り組みには足りないものがたくさんあると思います。足りないことに対してご批判やご意見をいただくことについては、グリーンコープとして自らが考えること、出来ることを精一杯に取り組んでいくことでお応えしていきたいと考えています。

以上のとおりです。伏して、ご理解をお願い致します。

草々